

【家庭数】



大東小学校 学校運営協議会

コミュニティ・スクールだより

令和6年6月24日号

令和4年度より大東小学校はコミュニティ・スクールとなり、今年度が3年目です。コミュニティ・スクールとは、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、連携・協働して学校運営に直接関わる仕組みである「学校運営協議会」を設置した学校のことを言います。6月21日（木）に、今年度1回目の学校運営協議会を開催しました。

それでは、学校運営協議会の委員を紹介します。（敬称略）



- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ◎会長：佐々木 克己（大東公民館長） | ◎副会長：山崎 徳平（青少年育成大東地区会会長） |
| ◎荒川 新治（大東自治協力会会長、交通指導員） | ◎原 英子（民生委員・児童委員、交通指導員） |
| ◎島田 信城（浦和大東郵便局局長） | ◎加藤 元（埼玉県立浦和西高等学校校長） |
| ◎鈴木 和博（さいたま市立木崎中学校校長） | ◎田口 順子（大東保育園園長） |
| ◎橘 清志（PTA会長） | ◎川原 信子（PTA副会長） |
| ◎藤井 裕果（大東小学校金管バンド保護者会会長） | ◎今井 知香（大東小学校学校開放運営委員会委員長） |
| ◎多田 嘉典（校長） | ◎鈴木 紘生（教頭） |
| | ◎高野 隆充（学校地域連携コーディネーター） |

以上のメンバーで1年間学校運営協議会を行っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

第1回は、学校運営に関する基本的な方針を承認していただきます。校長より「学校経営計画」「教育課程の編成」「組織の編成」「予算の執行」「施設及び設備の管理」について説明をし、すべて承認をいただきました。



熟議 ～エージェンシーを育む～

「エージェンシー」とは、多くの他者と協働して、自分の考えや行動で自分自身や世の中を少しでも変えようと行動する力のことです。不透明で予測困難な未来を生きる子どもたちに身に付けてほしい力と考えています。



図書ボランティアの読み聞かせ

昨年度の学校運営協議会で「教育活動をより活性化するための地域・保護者ボランティアの充実」について熟議をしました。そこで出た意見をもとに、図書ボランティアを発足しました。早速、6月20日の朝読書の時間に、3年生4学級で読み聞かせをしてくださいました。現在、学習支援ボランティアを募集しています。地域・保護者の皆様、興味がありましたら御連絡をください。

今年度、第1回は「エージェンシー」についての熟議です。

- 郵便局に中学生が職場体験に来る。高学年で、主体性や責任感を持たせるために、郵便局をはじめ、病院や店舗などで職場体験に取り組んでみてはどうか。
- 社会に目を向けさせることが必要である。人のよいことを見つけて発表することにから始めて、高学年では、社会の出来事からよいことを発表するなど、小さなことから始めて素地を育てること大きなことにつながる。
- 子どもたちがすぐに正解を知りたがる。今の子どもたちは愛されて育ってきている。親や社会が先走りして、安全弁をいくつも置いている。失敗をして、そこから対応を考えて乗り越えていく。大人が成長する機会を奪っているのではないか。
- 家で誰かがほめられると、「いや俺は…」「でも私は…」となる。なるべく子どもたちのよいところを認めるようにしている。学校でも友達のよいところも認めることは、すごく大事なことだと思う。

などの意見が出ました。エージェンシーを育むためのヒントをいただきました。子どもたちのよいところをどんどん認め、自己肯定感を高め、まずは、積極的なチャレンジにつなげていきたいと思えます。

次回は12月10日（火）です。今回は、具体的な方法、方策まで熟議する時間がありませんでした。「今回話題にあがったこと」「子どもたちのエージェンシーを育むために」という観点から、次回の熟議で引き続き話し合います。第2回では、さらに熟議を深め、大東っ子の「エージェンシー」の育成を目指して、学校、家庭、地域で取り組むこと等を話し合ってください。